知事記者会見の概要

日　　時：令和3年10月13日（水）10:00～10:58

場　　所：502会議室

出 席 者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

(1) 山形県プレミアム付きクーポン券（第2弾）の販売開始について

代表質問

(1) 副知事と特命補佐について

フリー質問

(1) 代表質問に関連して

(2) 衆議院議員選挙への対応について

(3) 山形新幹線の福島県境部のトンネルについて

＜幹事社：朝日・荘内・NHK＞

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。県内は稲刈りが大体終了しまして、すっかり秋めいてまいりました。これから、どんどんと寒さが増していきますので、県民の皆様には、くれぐれもご自愛いただきたいと思います。

さて、新型コロナについて申し上げます。県内では、10 月に入ってから 1 日の新規感染者数が 1 桁あるいはゼロとなっております。また病床占有率も 1 桁で推移するなど、感染の第 5 波は概ね収束しているものと捉えております。

そうした状況を踏まえ、先週の 9 日には、本県独自の「注意・警戒レベル」を、「レベル４（特別警戒）」から「レベル３（警戒）」に引き下げることといたしました。

ここまでこられましたのも、県民の皆様お一人お一人が、日々感染防止対策を徹底していただいた、そのおかげだと考えております。県民の皆様のご協力に改めて感謝を申し上げます。大変ありがとうございました。

県内の感染状況が落ち着いているこの時機を逃さず、感染対策と経済回復の両立を図るため、ワクチン接種の状況を踏まえ、医療専門家の皆様のご意見も伺いながら、感染防止対策をさらに徹底した上で、会食時の人数制限等の緩和を行ったところであります。

具体的には、会食に関する県民の皆様への注意喚起の内容を、これまでは「普段一緒にいる人と、少人数・短時間」としておりましたのを、「なるべく普段一緒にいる人、家族・職場などと、長時間を避けて」に変更いたしました。

人数に関して特に制限は設けませんので、感染防止対策を徹底してなるべくご家族や職場関係などの、普段一緒にいる方々と会食を楽しんでいただければと思っております。

また、県外からの来県者も含め、普段一緒にいない方々との会食につきましても、これまでは「県外からの来県者との会食は控えて」としておりましたところを、「できればワクチン接種の確認を行うなど慎重に判断して」に変更しております。検査パッケージなどを活用していただくのもよろしいかと思います。

なお、これらの制限につきましては、今後の感染状況を踏まえながら、段階的に緩和する場合もあれば、その逆もありますので、ご理解いただきたいと思っております。

それから、県職員が率先して会食を始めてくれ、というようなお声も多数いただいたところであります。内部で、わかりやすい目安なども県職員に示してはどうか、ということも私からも申し上げまして、総務部のほうでいろいろと考えて検討したようであります。「県職員の会食心得 10 か条」というようなことを聞いたところでありますので、のちほど総務部長からお話をさせていただければと思います。参考にしていただければ幸いでございます。

本県では、まん延防止の観点から、新型コロナの患者さんについては、入院を基本としておりますが、病床のひっ迫が見込まれる場合には、感染確認時点で、医師が入院を要さな

いと判断した無症状や軽傷の方について、必要に応じて事前に医療機関で診察を受けていただき、問題ないことを確認した上で、自宅や宿泊療養施設での療養をお願いしております。

宿泊療養施設につきましては、これまで村山地区に 1 か所 108 室、庄内地区に 1 か所 26 室を確保して運用してまいりましたが、このたび、今後の第 6 波の感染拡大に備えて、庄内地区に 1 か所 168 室、それから置賜地区に 1 か所 46 室、それぞれ新たに施設を確保しましたので、お知らせいたします。県としましては、これら施設の受け入れ準備を遅滞なく進め、今後の感染拡大に万全の備えをしてまいりたいと考えております。

今後も、感染の第 6 波は必ず来るという危機感を持って、県民の皆様には、不織布マスクの着用、こまめな手洗い、消毒、1 つの密でも避ける「ゼロ密」、換気の励行などの基本的な感染防止対策の徹底、そして業種別ガイドライン遵守の徹底をお願いいたします。

私から発表が一つございます。「山形県プレミアム付きクーポン券第２弾」についてであります。10 月 16 日から店内の参加店舗で販売を開始します。利用期間は、令和 4 年 1 月 31 日までとなります。この事業による経済効果は、23 億 7,500 万円を見込んでおります。このクーポン券は 1 枚 400 円で購入していただき、500 円のお支払いとして、飲食店や小売店、生活関連サービス業など県内の幅広い業種でお使いいただくことができます。5 枚を 1 シートとし、2,500 円分を 2,000 円で販売店舗において購入し、購入した店舗でのみご利用いただくことができます。なお、お一人 1 店舗あたり 3 シートまでご購入いただけます。9 月 30 日時点で約 5,000 店舗からの参加申し込みをいただいております。こちらの表示があるお店で販売をいたします。販売店舗につきましては、10 月 15 日から専用 WEB サイトに市町村ごとの一覧を掲載いたしますので、そちらをご覧になってください。

新型コロナの影響を受け、県内の多くの業種で売り上げの大幅な減少が続くなど、厳しい状況が続いております。県としましては、感染状況が比較的落ち着いてきているこの時期を逃さず、臨機応変に県内経済の回復に向けた取組みをしっかりと進めていくことが重要と考えております。

県民の皆様には、感染防止対策に十分ご留意いただきながら、「山形県プレミアム付きクーポン券」を地域のお店でのお買い物やお食事など大いに活用していただいて、コロナ禍で落ち込んだ地域経済の1日も早い回復に向けて、引き続き身近な地域のお店を支えていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

NHK、藤井です。よろしくお願いします。代表質問は、特命補佐と副知事の業務の分担についてです。役割分担について知事はどのようにお考えか、先日の県議会の決議ありましたが、それについてお聞きします。あわせて、特命補佐の任期についても、お伺いします。よろしくお願いします。

知事

はい。副知事につきましては、知事の代理や市町村との渉外、庁内の総合調整等の幅広い業務を担う県政運営の要として、重責を担うポストでございます。一方、特命補佐につきましては、コロナ対策を中心として、あくまでも助言、調査等に従事するものでありますので、両者はその法的根拠、権限、職務内容などの面で、明確に位置付けや立場が異なるものであることを、これまでも繰り返しお答えしてきたところであります。県議会の対応につきましては、今後検討して参ります。

任期ということでありますけども、先般の定例会においても答弁申し上げたのですけれども、新型コロナの第 6 波がいつ何時襲来するか分からないという危機感を持って今準備をしている、そういう状況でありますので、現時点で、いつまでというようなことについては申し上げるのは難しいと思っております。任期というのは、会計年度になっております。

記者

追加でいいですか。今のお話で、県議会の対応は今後検討というのは、わかりやすく位置付けを示すことはないのでしょうか。知事は「位置付けが明確に異なる」とおっしゃる一方で、例えば半年前の会見では「苦肉の策」ということで特命補佐を任命したと。それで苦肉の策で「業務として重なる部分も多いと思う」と、そういった回答もしているわけで、明確に異なるということとまた発言が違うということもありました。なので、その辺の役割分担については、公にわかりやすいように示すべきだとは思うのですが、その辺はいかがですか。

知事

そうですね。議会でも申し上げたのですが、新しく副知事が就任といいますか、人事案件に同意していただきました。それで「副知事が就任しますと、自ずと正常化していくというふうに思います」とお答え申し上げたのですけれども、やはりそういうことだというふうに思っております。

記者さんがおっしゃるように、3 月ですかね、あのときのことを考えると、本当に、数日前に否決というようなことが、見通しがわかりまして、大変なことだと思って、なんとかしなければという思いで、本当に苦肉の策で、どうやって切り抜ければいいのか、コロナ対策も目の前の災害に遭ってるような状況でしたので、体制を弱体化させてはいけないとか、そのことで精一杯でありました。それで苦肉の策として、非常勤の特命補佐というものを設置したわけであります。ただそれで、すべてがカバーされたかというと、それはありませんで、まだまだ足りないというところもありまして、実は総合調整班というのも内部に作ってもらったんです。私と総務部長と次長とか課長とか 5，6 人で構成しているんですけれども、そして都度都度、総合調整班に集まってもらって、ここは部局長たちに対応してもらうとか、ここは私がやってみるとか、ここは特命補佐にお願いするとか、そういったことで、なんとか

かんとか切り抜けてきた、というのが実情であります。本当に、いろいろ重なっていると思われても仕方がないといいますか、部局と部局も重なるところもあるのですけれども、業務はまったくすっきりとすべてきちっとと割れるということではなくて、重なるところもあるし、正直言っていろいろお願いしてきたこともあったなと思っています。ただ、それは権限とかではなくて、助言、調査といったことが多かったといいますか、なるべくそのようにしてきたわけでありますけれども、今後は副知事が就任すれば、正常化していかなくちゃいけない、と思っているところです。具体的でない説明で大変申し訳ないのですけども、でも本当に、異常事態が続いていたということはご理解いただきたいと思っています。

記者

ちょっと総合調整が 5，6 人でやるというのも大変だなと聞いていて思ったんですけど、「異常事態が続いていた」と知事はおっしゃっていて、「自ずとこれから決まってくる」とおっしゃってるんだけれども、3 月の記者会見の時点で、「どれが副知事の仕事で、どれが特命補佐の仕事なのか、明確化していればいいんじゃないか」というような質問もあったんですよね。半年前にそういった仕分けをしていればいいじゃないかという課題はあったわけで、それをずっと考えていれば、自ずと本来、副知事の仕事は何で、特命補佐の仕事は何でというのは決まっているわけで、現状においてもすぐそれは示せるものだと思うんですけれど、それをずっとやってこなかったということ、それで今回あまり示せてないんじゃないですか。

知事

副知事がいなかったので、いなかったということが本当に大きくて、その時点ではっきり示すということはなかなか難しかったかなと思います。位置付けとか権限とか、具体的な業務についても、いろいろ特命補佐にはできないようなことがたくさんあったんのですけれども、それを一つ一つ「これはこうだ、これはこうだ」というような説明はできなかったと思いますけれども、ただ形式的には本当に全く明確に違うということはご理解いただけると思います。

記者

要は「具体的に示してください」と議会から言われているわけで、スケジュールとしてはいつまで示すおつもりなのか、今の話を聞いていると「あまり示せないよ」というふうに聞こえるんですけど、具体的に示す意思はお有りなんですね。そうだとしたら、いつまでにやる、とかその辺をお聞きしたいんですけども。

知事

いつまでというのはちょっと申し上げられませんけれども、これから副知事もまだ就任しておりませんので、就任してから徐々に、その前から受け入れ準備ということはしてま

いりますけれども、今すぐはちょっと無理かなと思っていますので、いつまでということはちょっと難しいかなと思っております。

記者
　最後に１点で、就任時期というのは今もまだ決まってないのですか。

知事
　今も調整中です。ご本人の事情とか、今のポジションとか、いろいろなことがあって、今も調整中でございます。

記者
　理事長職にもあるわけで、後任選びも必要だっていうのはあると思うのですけど、やっぱり副知事を誰にするかというのが難航したのがそういった背景にあるのでしょうかね。

知事
　難航した背景というより、事情ということで。今月中には、というふうには多分なるかと思いますので、しかるべきタイミングを見て、皆様にお知らせをしたいと思っています。

記者
　はい、幹事社からは以上です。

☆フリー質問
記者
　荘内日報の松田です、よろしくお願いします。今の特命補佐の具体的な業務の内容等を県民に示す時期について、関連して質問します。
　知事がおっしゃっているように、第 6 波が来ると予想されている以上、コロナに対応できる人間というのはいくらでもいたほうがいいという理論はわかりますが、ただ我々や報道も、県議会も、県民も含めて知りたいのは、特命補佐がこれまでどんな助言をして、それがどんな成果に結びついたか、どんな具体的な助言があったかなんです。そこも含めて具体的に示すときには、それを踏まえておっしゃっていただきたいと思うのですが。例えば、この前の 9 月定例会の予算特別委員会などで知事がおっしゃっていたように、寒河江市や山形市との緊急事態宣言や特別集中期間の設置というのは、どちらかというと医療専門家の方々の意見じゃないですか、そこに特命補佐がどんな助言があったのか、その設置について何か的確なアドバイスをしたのか、そこのところを我々は知りたいわけなんです。

知事
　はい、コロナ対策については、皆様のお目に触れるのはやはり特別集中期間とか、独自

の緊急事態宣言であったかと思いますけれども、それについては内部でいろいろと議論をした上で、その上でさらに医療専門家の皆様方のご意見も踏まえて、ということにいつも大体しておりますので、最後はその医療専門家の皆様のご意見というのも大変貴重なところなのですけども、それまでの日々の対策、また議論の中では、本当にさまざまな、やはりこれまで昨年のコロナの始まる前の学校休業といってもう本当に混乱したあの時点から、ずっと私と一緒になって対策をしてきた方でありますので、本当にいろいろなことを熟知してくださっております。その視点から本当にコロナ対策のあらゆる会議で、本当にお一人の貴重な助言ということをいただいております。

記者
　その貴重な助言というのがどういった内容かというのは、いずれ示される予定でいらっしゃいますか。

知事
　一つ一つですか、毎日のようにやっているので。

記者
　一つ一つということはないですけども、あくまでも成果があったような、こういった助言があったという。

知事
　一人の人の意見が通って、誰の意見でそうなったとかいうところまではちょっとなかなか言うのは難しいのかなと思います。やっぱり、何と言うのでしょうかね、合議制みたいなことでやっておりますので、議論に議論を重ねてやっていますので、「この人の意見が通った」とか「あの人で考えてこうなった」とかいうよりは、やはり本当に合議制でやっていますので、喧喧諤諤やっているその中のお一人というふうに考えてもらったほうがいいかなと思います。

記者
　こんなことを聞くのはなぜかと言うと、今、県議会とのやり取りで、副知事が誕生した以上、特命補佐はもう解任していいのじゃないかという声が上がっているのは、知事が特命補佐の有為性、言い方悪いですけども、こんなふうに役に立つんだっていうのを示せてないからだと思うんです。それがまだちゃんと伝わってきていないので、それでこんな問題になっているんではないかと。それで、知事は特命補佐がこんなふうに非常に県政に役立っているんだっていうのを示せれば、多少納得いく部分も出てくるのじゃないかと思っております。それで、これも新しい副知事がいろいろ、商工労働部に長くいらしたということで、非常に経済のスペシャリストではないかと思うのですが、そうすると経済再生に

ついてはやはり特命補佐からだんだん副知事のほうにバトンタッチしていくような形になるのでしょうか。その辺も今どう考えていらっしゃるか教えていただければ。

知事

そうですね、言葉上でなかなか分けるのは難しいかなと思っていますけれども、やっぱり新しい副知事になられる方は、今、記者さんがおっしゃったとおりの方でありますので、非常に現場に精通しているし、ポストコロナ、アフターコロナということを考えた上で、非常に大きな戦力になると言いますか、私自身はそのようなことを期待している、もちろん私の片腕として、副知事でありますのでしっかり代理といったこともお願いしたいと思っております。あと、庁内とか市町村との渉外、そういったことも行っていただけると思って、本当に同意いただいてから私の肩の荷が少し下りたなという、正直そういうところがあるのですけれども、今記者さんからのご指摘は大変ありがとうございます。本当に副知事が就任すれば、特命補佐との違いと言いますか、逆にはっきりしてくると言いますか、こういうところで県政に役立っていただいているというようなことが、今よりはわかっていただけるようになるのではないかと思っております。今までごちゃごちゃと私のほうもお願いしてきた面もありますので、それは整理していきたいと思っています。

記者

はい、ありがとうございました。以上です。

記者

山形新聞の田中です。2つありまして、1つ目、特命補佐と副知事の件について。

決議は2項目あって、両者の違いを明確に、職務内容を明確にしてほしいというのが1つ。もう1つは特命補佐が行った助言に関して速やかな県民への公表というのが2つ目でありました。この2項目目の速やかな公表、知事はどのように県民に公表していく、この決議を受け止めるのか、受け止めた上でどのように対応されるのか、教えていただければと思います。

知事

はい、ありがとうございます。そうですね、人事案に対して決議というのはちょっと私もびっくりしたのでありますけれども、ただ皆様がやはりご心配をいただいているのかなと思います。県議会で出てきたのは、新しい副知事が就任した時にやりにくいのではないかとか、そういうお声もありました。そういったことについて、私は十分配慮していきたいと思っているところです、そうならないようにですね。

ですから、皆様の心配、本意がどこにあるのかというようなことも考えながら、できる限りお答えをしていきたいと思っております。すべてが答えられるかどうかはちょっと分からないので、先ほど申し上げたように合議制でずっとやってきておりますので、お答えできる部分とできない部分があるかもしれないのですけれども、できる限りお答えをして

いければと思っております。

記者
　重ねて、特命補佐は、助言、調査という機能を持っている、いわゆる助言というのは、アドバイザー的な機能があるのかと思います。通常、例えば審議会等々でアドバイザーの方がいらっしゃると、そのアドバイザーの方の助言内容というのを、こういうようなアドバイスがあったと、こういう付言のような形で作ることが一般的というか、そういうケースもあるのかと思います。例えばそういった形で、例えば特命補佐、この案件についてこういった助言があったというものが例えば今後示されていくとか、いろいろ方法はあるのかと思いますけども、これからそういったことも、公表の方法であるとか、内容も含めて、これからの検討になっていくと受け止めてよろしいんでしょうか。

知事
　はい、そうですね、審議会というのはやっぱり議事録を作成して公にするとか、あるいは会議の後に皆さんに内容をお知らせするとかそういったことをしているのではないかと思っています。ただ、コロナ対策の場合、議事録を作っているというようなことではなくて、本当に内部で喧喧諤諤をやって、そして一応の方向付けをするというようなことをやっていますので、内部で喧喧諤諤やっていることの議事録までは作成しておりませんので、なかなか難しいのでありますけれども、今、記者さんからいただいた、先ほどお2人の記者さんからもいただいたその真意と言いますか、思いも大体共通しているのかなと思いますので、今後できる限り、こういった助言があったとか、できる範囲で、残すという言葉になるかちょっとわからないのですけども、わかるようにしていけるところはしていければと思っています。

記者
　ありがとうございます。2項目目、衆議院選挙になります。明日、臨時国会会期末ですね、午後1時から開かれまして、衆議院が解散になります。今月19日の公示、任期満了をまたぐので実質任期満了に近い4年ぶりの選挙になるわけですけど、まずは知事、今回の衆議院選挙に向けて、支援行動、どのようなスタンスで、支援の有無も含めて、臨まれるのかを教えていただければと思います。

知事
　そうですね、はい。衆議院選挙、短期決戦というようなことで言われております。解散も本当に目の前ということでありますし、一気にその動きが加速するのかなと思っておりますけれども、私のスタンスというのは、やはりずっと変わらず申し上げてきておりますように、本当に応援していただいた方へは恩返しというようなことは、やはり当然考えていきたいと思っています。

心情的には、本当に応援したい人たちがいるわけなのでありますけれども、ただ、私の場合、本当にいろんな立場の方々から応援していただいていて、県民の皆さんを考えた場合に、本当にいろいろな方々から応援して、支援していただいて、知事選ということもあのようになったわけでありますので、本当にいつもいつも私は悩みながら、具体的にはどういうふうにしていったらいいかとか、後援会とか幹部の皆さんのご意見もお聞きしたりしながら、本当に熟慮、熟慮とずっとやってきましたけど、今回は熟慮する暇もないぐらいの短い期間でありますので、本当に早くどういうようなことをすればいいのか、後援会の意見、お考えもお聞きしなければならないなというような状況でございます。

記者

心の中にはというような、今、お話もありましたけども、今回3つの選挙区で、合計7人の方が立候補を予定されていて、自民党の現職3人に対して新人の方が臨まれるという戦いになります。その新人の中、例えば1区、2区、3区、見渡してみれば、今年1月の知事選で知事を応援された方であるとか、県議会の中で知事の、いわゆる県政与党といわれる会派に所属なさった方であるとか、無所属ではあっても今年の3月の副知事人事案に関してはいわゆる賛成の意思を示された方だったりとか、いわゆる知事に関していわゆる県政の与党というような立場、もしくは知事選で応援されたという形で関わってこられている方々がいます。

9月定例会の伊藤重成議員の代表質問でも、基本的には公正中立だとしながらも、恩返しというものが一定の基準にして、これまで行動してきたともおっしゃっておられました。その意中の方というのはおそらくその方々を指しているのかなというふうには思いますけども、これから何がしかの答えを出して、公示まで、もしくは選挙期間中、それなりの答えに基づいた、例えば行動であるとか、そういったものを取られるということになるのでしょうか。

知事

はい、そうですね、知事選の時のことを考えれば、議員としてはやはり原田和広さん、阿部ひとみさんは私を本当に支えてきてくれた方々であります。また支援してくれたということでは加藤健一さんがいらっしゃいます。それから3区には共産党の方もいらっしゃるわけで、もう本当に、私を支援してくれた方々はたくさんおりますので、大変複雑なところはありますけど、心情的にはやはり応援してくれて、しかも県議会でも支えてくれた方々には恩返しをしなければというような思いはございます。具体的にどうというところまでは、今はちょっとまだ熟慮中ということであります。

記者

最後に、その具体的なというところで、この間の日曜日10日の日に、知事、最上地方のほうに行かれたかと思います。その際、立ち寄られた場所が、その3区で今知事がお名前を挙げられた方が使われている場所で、そこで知事の後援会の会合が開かれていたかと思います。この行為は具体的な応援行動の一つと受け止めてよろしいんのでしょうか。

知事
　そうですね、私の後援会の方々が、応援したいという方々が集まるということを前日に聞いたわけなんでありますけれども、私は以前から金山町の岸宏一先生の胸像が非常にすばらしい環境のところに、大堰公園のところに移設されたということをお聞きして、見に来てくれ、会いに来てくれと言われておりましたので、ようやく、9日の日も用事がございましたし公務もありました、10日の日に岸先生にお会いしに行こうと決めまして、まいりました。その途中で新庄にオレンジの会の人が数人いらっしゃるというようなことを聞いて、そこにちょっと立ち寄らせていただきました。それがどういうふうに受け止めていただいたかわかりませんけれども、大きく広く考えればそれも応援行動に入るかもしれませんし、ただ、私は金山町に行く途中でちょっと立ち寄らせていただいた、オレンジの会の方々に本当に知事選以来にお会いして、あの時のお礼を言ったというようなことがありました。

記者
　朝日新聞の鷲田と申します。先ほどの総選挙と絡んで、具体的に原田さん、阿部さん、あと2区の加藤さん、名前を挙げられましたけど、この方々を応援するというような心情でいらっしゃるということでいいでしょうか。

知事
　はい、心情として。

記者
　応援される。実際にマイクを持ってだったり、具体的に応援行動に移される予定はありますか、要請があればですが。

知事
　熟慮中です。今なんとも具体的なことは決めておりませんし、ちょっとこれから考えます。何ができるか、ちょっと熟慮中ということでお願いします。

記者
　承知しました。あともう1点、特命補佐の話に戻ります。この半年間、副知事が不在だったという中で、平山さんが受けられたというのはすごい英断だと思いますし、立派だと思う中で、平山さんにはちょっと失礼なんですが、知事がおっしゃったことなので申し上げます。これまでに知事は若松さんについて「余人をもって代えがたい」とおっしゃっていました。正直なところ、現状は「余人がいた」ということになりますが、そのことについてどのように考えますか。

知事
　はい、そうですね。余人をもって代えがたいと申し上げて、6月議会までは若松さんということでお願いしたいなと思ってまいりました。ですが、もう絶対同意しないという、そういう雰囲気でありましたので、お話もさせていただいたけども、そういう大変固いお考えのようでありましたので、議会は多数決であります。やはりこれ以上引き延ばしてはなと、県政にとって良くないということは県民の皆さんにとって良くないことでありますので、私としては方向転換をいたしました。記者さんの「余人がいたわけですね」という言葉なんのですけれども、非常にそれに対して答えるのは難しいのですけれども、そこで方向転換をして、新しい目で、新しい視点でまた人選をさせていただきました。その中ですばらしい人がおりました、ということであります。

記者
　わかりました。あともう1点、否決された直後に、知事は報道陣の取材に対して、知事選後だったもんですから、要は知事選は勝ったんだから、これは知事の世論なんだ、要は支持なんだということで若松さんも含めた支持なんだというような趣旨の発言もされていました。今回、そこはある意味違う人選がされたということによって、ある意味世論とは、知事のおっしゃるその世論の後押しがあったとすれば、違う行動をすることになると思うんですけども、その点についてはどのように県民に説明されますか。

知事
　説明ですか。はい、そうですね。6 月までの時点では、多くの県民の皆さんからご支持をいただいた、そのご支持をいただいた中には体制も含まれていただろうと、要するに県政そのものも肯定していただいたのだろうと、私は考えていたわけなんですね。そういったことがありました。ですがやはり、議会というものは、多数決であります。しっかりご同意いただけないと進まないというところがありますので、そこは軌道修正をさせていただいたということであります。そのように考えております。
　やはり、いろいろと何回かお話合いもさせていただいて、そして県議の皆様の、全員ではないですけれども、お考えも尊重しなければならないと私が判断するに至ったということでありますので、そのことをご理解いただきたいと思います。

記者
　ありがとうございます。

記者
　読売新聞の吉田です。選挙関連で別の視点なんですけれども、前回の衆院選と参院選で山形県の投票率が全国トップで、10 代の投票率も極めて高いのですけども、この要因を知事はどういうふうに見てらっしゃいますでしょうか。

知事

そうですね、ワクチン接種も県民の皆さんが本当に熱心にしてくださっております。市町村も熱心で、県民の皆さんも熱心でということで、私やはり一つには大きく県民性があるのかなと思っています。勤勉、実直、これが山形県民性だというふうに私は捉えております。

ですから、全国的に見て投票率も高いですし、あと勤勉なところを示されるメルクマールとして、ほかにもあったと思います。現在はわかりませんが、以前は、たしか納税率、税金の多寡に関わらず、納税率も真面目に納税してくださる県民だっていう、もう 10 年 20 年も前の話なのですけど、そういったことも聞いております。

ですから、大きく見て、県民性なのかなと、そして実直な方々がまたその子孫にも伝えているといいますか、家庭であったり、地域であったり、教育であったり、そういう県民性が DNA みたいに伝承されてきているのかなと思っています。もちろん、いろいろと選挙管理委員会のご努力とか、そういったこともももちろんあるかと思っています。

記者

その伝承というところで、家庭内で、例えば 3 世代の同居率が高いということがありますけども、そういったことは要因としてありますかね。

知事

はい、それは私は大きいのではないかと思っています。ただその 3 世代同居率が日本一なのですけれども、今 17%ぐらいまでになってますでしょうか、どんどん核家族化しているとも聞いているところです。ですが、やっぱり本県の特徴としては、そういう 3 世代同居率が全国一だというようなことは、やはり昔からの良い所は伝承されるという一つの大きなシステムではないですけれども、そういう仕組みにはなっているのかなと思います。

記者

今回の衆院選でもトップというか、そういった高い投票行動っていうことを県民に期待したいというか、そういうところって良い表れだと思うんですけど、その辺の期待どうでしょうかね。

知事

そうですね、やはり大事な選挙であります、国政選挙。これは、国の政策を決める。大事な政策でありますので、やはり皆さんができるだけ政策に関心を持っていただいて、皆さんが本当に投票行動を取っていただきたいなと思っています。若い方から、しっかりと投票行動を取っていただいて、そのことがやはり自分たちの日常生活に全部関わってくるということがありますので、大事な一つの投票という権利でありますので、ぜひその権利を皆さんお使いいただきたいなと思っています。

記者
　全国１位を期待されますか。

知事
　そうですね、もちろん期待したいと思います。

記者
　日本経済新聞の増渕です。よろしくお願いします。山形新幹線の件で、米沢・福島間のトンネルの件でお伺いしたいと思います。今回 2,200 万円の調査費を計上されましたけれども、その前段として、JR から既存の線路幅でもカーブを緩くすれば 200 キロで走れるみたいな提案があったということも聞いています。この中で、あのトンネルに絡んで、あそこをフル規格新幹線にするのか、既存の線路幅でも、とにかくトンネルを掘ることを優先させるのか、知事としてのお考えを伺えればと思います。

知事
　はい、そうですね。細かいことまで、今ご説明申し上げることはできないのですけども、カーブをこれまでよりも緩くして、要するに真っ直ぐに近づけるということであります。そういうことのための再調査と聞いておりますので、そうするとトンネルを掘ることで時間短縮にもなりますし、私はあくまでやはりフル規格で考えたいと思っています。
　ただ従来のフル規格っていうのは、私考えている横幅というイメージであったものが、そうではなくヨーロッパ型の縦長型ですと、横幅をさらに広くしなくても、今の考えているトンネルで使用できると、本当に画期的なことをみらい企画創造部からも聞いておりますので、しっかりととにかくトンネルを掘っていただくということは、本県の発展にとって、ものすごく重要なことだと思っておりますので、10 年後 20 年後 30 年後を考えて、やはりしっかりとつなげていただく、フル規格をですね、今、福島まで来てるわけですから、山形、秋田までつなげていただくということはやはり、国土強靭化という面でも、災害が起きたときにも大事でありますし、また観光先進国というような、山形県も観光で盛り返していきたいとも思っていますので、日本の魅力はやはり観光ということで、世界中からお客さんを呼べると思っています。本当に素晴らしい文化もある国でありますので、日本中をやはり、きちんとつなぐというようなことは、JR さんとしてしっかりやっていただきたいし、政府も、昭和 47 年組のほうは何とかなってるのですけれども、昭和 48 年組はまだ手つかずなわけでありますので、日本の隅々までしっかりとフル規格をつなげていただきたいと、国策としてやはりそれはやるべきだと思っております。

記者
　JR はトンネルに関して、トンネルを掘るとこれだけかかる、それをフル規格にするとプ

ラスアルファがかかるという事業費を示したと思うのですけども、そうするとプラスアルファを含めた事業費の方向で県としては考えるということでよろしいのでしょうか。

知事

昨年までは、フル規格のトンネルですと 120 億円の嵩増しがあるということを聞いてきたわけなのですけれども、それなしでフル規格が通るということでありますので、この件については、マスコミの皆さんにちゃんと時間を設けてその説明をしてもらったほうがいいかと思います。私も、今年の 2 月か 3 月だったか、本当に良い意味でのショックだったんです。これでいけるんだということがわかりましたので、ぜひマスコミの皆さんにもご理解いただけるように説明を、時間を調整していただいて、皆さんにもご理解いただきご協力をお願いしたいと思っております。すみません、今それについてだと本当に図を見ていただいて説明しないといけないものですから。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

副知事の件で、結局この 7 か月は何だったのかなと思ったんですけども、知事が「余人をもって代えがたい」っていうのをおっしゃって、僕らも 50 回ぐらい聞いたかもしれないんですけど。これって「余人をもって代えがたい」って一体誰が思っていたのかなと振り返ると、知事とごく一部の周辺しか思ってなかったんじゃないかと思うのですけど、その辺はいかがですかね。

知事選での圧勝も背景に、民意も、副知事も認めたんだとおっしゃってましたけど。副知事が変わって民意がどうかというと、どうだろうと思うんですよね。県庁内部でも、そんなたくさん声聞かれたかなっていうと、私の取材ではそんなになかったかなと思うんですけども、その辺はいかがですか。

知事

はい。2 月議会、6 月議会とあったわけでありますけれども、私はもちろんそう思うからこそやはり提案するわけなんですね、人事案として。それについて、私の知っているといいますか、応援者といいますか、県内各地の方々とお会いして、「やっぱりあの人がいいと思うよ」「なんでそんな反対するんだろう」というようなことで、「余人をもって代えがたい」というようなことに賛成だっていう方も、私はたくさんお聞きしました。ですけども、今、記者さんがおっしゃったように、記者さんはあまり聞いていないということであります。

どっちの数が多いかというようなことまではちょっとわかりませんけれども、ただ、知事である私が、副知事としてこの方がいいなと思い、そしていろんな県政に資する方だなと思ったわけでありますので、そのことはご理解いただきたいと思いますし、結局、同意

を得られなかったということで、軌道修正したというのが現実であります。もちろん、新しい方には新しい方の素晴らしい点がたくさんありますので、そこは大いに活躍していただきたいと思っております。

記者

最後に追加で 1 点だけ。知事選では、知事が圧勝されたわけだけれども、一方で多選批判ってありましたね。多選の弊害っていうのは、権力が集中して、極々一部の人の声しか聞けないというのがありました。そういった中で、早速の副知事案件で人事案否決されて、7 か月に渡って不在が続くという状況になって、こういった多選批判の弊害が出てしまったんじゃないかなという見方もあるんじゃないかなと思うのですけど、その辺はどう捉えてますか。民意をすくえなくなってるんじゃないかなと。

知事

そこは議会制というのがありますので、議会の方々とのいろいろなお話合いがもっとあればよかったというようなことならば、重く受け止めたいと思っておりますけれども、多選だからそうなったのかっていうのは、ちょっと私にもわかりかねます。

私としては、やはり県政を行っていく上で、できる限り多くの県民の方とお会いをし、また現場にも行かせていただいて、感染状況によりますけれどもコロナ対策しっかりとやりながら、山形県の発展、県民の皆さんの幸せを目指していきたいということに変わりは全くありませんので、常に原点に返ってですね。毎日、朝、お祈りをしてるんです、県民の皆さんの幸せと県勢発展、この二つが私の使命であり役割だと思っていますので、そのためには多くの方々とお会いをして、多くの方のお考えをお聞きすることが大事だなと思っています。

県職員の皆さんにも、やはり対話重視・現場主義といったことをしっかり実践してもらって、できる限り民意というものを反映させる県政でありたいと思っています。